

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：24301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K16805

研究課題名(和文) 自然主義文学のアダプテーション：「予告」と「布石」による語りの戦略

研究課題名(英文) Adaptation in Naturalism: "Annonce" and "Amorce" as Narrative Strategy

研究代表者

中村 翠 (Midori, Nakamura)

京都市立芸術大学・美術学部 / 美術研究科・准教授

研究者番号：00706301

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本課題の目的は、文学作品がアダプテーション(翻案)される際、初読の際に鑑賞者の興味をかきたてる「予告」および再読を促す「布石」という語りの手法が、どのように使い分けられているのかを明らかにすることである。とりわけ、十九世紀後半の自然主義文学は、演劇や映画など、他ジャンルへのアダプテーションが活発に行われる源となったため、それらの翻案を主要な題材として研究をおこなった。原作者や、同時代および後世の翻案家の、草稿・書簡・インタビュー等を調査することにより、時代やジャンルの要請にしたがってこの二つの手法の用いられ方が変容していることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

既存の文学作品を繰り返し創りなおし、受容しようとするアダプテーションの欲求は、まさに初読(初見)時のスペースをふたたび異なるジャンルで作り直そうとする試みであり、再読(再見)によって生じる重層的な作品価値を、異なる媒体で見出す行為でもある。本研究は、アダプテーションを初読(初見)・再読(再見)に狙いをさだめた語りの戦略と結びつけて具体的な作品を例に考察する点で、物語の再創造・再受容のメカニズムを一端なりとも解明することができたといえる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to investigate how the narrative techniques of 'annonce' (announcement or foreshadowing) and 'amorce' (preparation) were deployed in French literary adaptation. Naturalistic literature in the latter half of the nineteenth century became a central source of material for theater and film adaptation. By examining the primary documents of the original authors and their collaborators and adapters in film and theater, my project traces the evolution of both narrative strategies, and considers their influence and importance within the context of French literary and dramatic culture.

研究分野：フランス文学

キーワード：自然主義文学 フランス文学 アダプテーション 予告 布石 ゾラ 翻案

1. 研究開始当初の背景

本課題研究代表者の学術的関心の出発点は「文学作品はどのようにして読者の興味を惹くのか?」という根源的な問いであった。これに対して、物語の先の時点を予め仄めかし、サスペンスを生み出す構成上の工夫が一端を担っているのではないかと仮説を立てた。この工夫は、ジュネットが定義する「予告(annonce)」と合致する(Genette, *Figures III*, 1972)。予告とは、先説法(prolepse)の一種であり、先に起こる出来事を前もって示唆することによって、それが実現するまでのあいだ読者の期待を維持する語りの技法である。そこで研究代表者は、「予告」を意図的に用いるフランスの自然主義小説家エミール・ゾラ(1840-1902)の作品や草稿を分析対象として、博士論文(2012) および学術論文を執筆した。

しかし、博士論文完成後、読者が物語の結末を知った後には「予告」はもはやサスペンスを生み出さないため、初読の際にしか効果を発揮し得ないのではないかと考えるに至った。そこで、科研費・研究活動スタート支援の課題では、予告と隣接した語りの手法である「布石(amorce)」の問題に着手した(『19世紀フランス文学における物語の手法「予告」と「布石」:ゾラの作品を中心に』H25-26年度)。ジュネットによると、「布石」は予告と一見よく似た予示的な形式をもつが、非常に暗示的に組み込まれているため、初めは読者に悟られない。すなわち、初読時には効果を生まないが、読者が筋を一度知った後にこそ、テキストに織り込まれた意味の再発見を促し、再読に耐え得る強度を作品に与える。研究代表者は、予告と布石を区別し、初読と再読の対比と関連づけるに至った。

この問題を考察するため、ゾラ自身が戯曲から小説に書き直した作品を両ジャンル間で比較検討したところ、予告と布石の用いられ方が変化していることがわかった。この変化は、それぞれのジャンルの鑑賞形態にもっとも効果的な語りの技法が、作家によって使い分けられたためであると考察される(小説は紙媒体をもち、再読が容易であるが、舞台は一般的に何度も再見されにくい、など)。この研究を進める中で浮かび上がってきたのが、アダプテーション、すなわち異なる芸術ジャンルへの移し換えという新たな問題である。したがってこれをテーマに据えなおし、本研究課題「自然主義文学のアダプテーション:「予告」と「布石」による語りの戦略」をスタートさせた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、文学をもとにしたアダプテーションにおいて、初読(初見)と再読(再見)に狙いをさだめた語りの戦略である予告と布石が、どのように異なるジャンルの鑑賞形態に即して再構築されるのかを考察することである。

また、19世紀末の自然主義文学は、アダプテーションの源流となってきた。ゾラを代表とする自然主義作家たちは、自然主義の文学理論を演劇分野に押し進めることを目指し、ジャンルを横断する創作方法をみずから模索した(Zola, *Le Naturalisme au théâtre*, 1879)。さらに、自然主義文学は現実社会を忠実に観察し描写するというその特質上、のちに映画技術との親和性を見出し、映画黎明期の文学アダプテーションを促進した。事実、自然主義文学は現代でもアダプテーションを惹起する力があり、たえず舞台化・映画化されている。

したがってこうした自然主義文学を源流とするアダプテーション作品における語りの手法を分析することにより、同一の物語が飽くことなく生み直され、繰り返し体験される文学の力学の一端を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)理論的整備

本研究課題の基盤を確立するため、物語論の先行研究や、近年とくに出版が増えてきつつあるアダプテーションに関する先行研究を可能なかぎり把握する。

(2)生成研究

いかにして作家・翻案家は語りの手法を工夫し、翻案に組み入れていったのかを、草稿・日記・書簡・インタビュー等をもとに究明する。具体例をあげるならば、ゾラ自身の草稿や、彼が劇作家ピュスナクと共同で翻案するにあたって交わした書簡は、パリのフランス国立図書館およびITEM(近代テキスト草稿研究所)にマイクロフィルムの形で所蔵されている。また翻案映画監督のシナリオや創作にまつわる草稿資料は、パリの国立図書館およびシネマテーク・フランセーズの映画図書館等に所蔵されている。よって休業期間に渡り、資料調査および複写を行う。

(3)時代間比較

具体的な作品の複数のアダプテーションを、時代を追って比較する。同時代および後世の他の作家が翻案する作品は、原作者自身が翻案する作品よりも、原作から離れたアレンジを行っていることが多い。ところが、それにも関わらず原作に見られる予告・布石の手法は、翻案作品中にも踏襲されているか、あるいは表現方法を変えて登場することがある。これは、既に原作の物語を知っている観客と、そうではない観客の目を意識した戦略上の結果ではないかという仮説をたて、検証する。これを効率的に行うため、くりかえし翻案されている作品を選び、原作者による翻案台本から今日に至るまでのアダプテーション作品を追う形で比較する。

(4) ジャンル比較

予告や布石が翻案化の際、ジャンル特有の表現形態や鑑賞形態に即してどのように変わっていくのか、考察する。

たとえば、舞台芸術はふつう一度の鑑賞(=初見のみ)であることが多いのに対し、小説のような紙の媒体では再読が比較的容易である。映画については、記録されるものであるため、原則的には再見が可能だが、初期の映画と、ビデオ・DVD・Blu-ray・配信など再生機器が発達した現代の映画では再見の容易さが異なることを念頭におく必要がある。これらの違いによって、予告と布石がいかに使い分けられているかを比較分析する。

4. 研究成果

(1) ゾラが演出家ウィリアム・ピュスナクに協力して舞台化した『ナナ』の台本をとりあげ、予告の手法が翻案にあたって大きく改変された事実、またそれにともなって受容される物語の性質が変化した事実を、書簡等の資料をもとに解き明かした。この研究成果を、フランスのシリジー＝ラ＝サル(Cerisy-la-Salle)で2016年6月23日～30日にかけておこなわれたシンポジウム「21世紀にゾラを読む Lire Zola au XXI^e siècle」に参加し、発表した。またこの内容を論文として執筆し、シンポジウムの論文集に寄稿した。

(2) ゾラが自身の演劇作品『マドレーヌ』(1865)を書き直した小説『マドレーヌ・フェラ』(1868)をとりあげ、演劇から小説への翻案というこの珍しい例において、ジャンルの変更にともなう予告および布石の用いられ方の変化を、草稿の読解を行いながら分析した。この研究論文はAIZEN国際ゾラ自然主義文学学会の発行する学術誌『Excavatio』に掲載された。

(3) ゾラの『金』における予告的ユートピア像が作品の構造に組み込まれた経緯を生成論的アプローチによって考察した論文が、書籍「La Fabrique du texte a l'épreuve de la genétique」中に掲載され出版された。

(4) 2017年6月、ハンガリーで開催された国際学会AIZEN「Zola, Mirbeau et le naturalisme」にて、文学におけるフェティシズムの表象として名高いオクターヴ・ミルボーの小説『小間使いの日記』(1900)が、じつは1865年に発表されたゾラの短編作品のある種の翻案であった可能性を示唆する研究発表をおこなった。またこの内容を論文として執筆し、シンポジウムの論文集に寄稿した。

(5) 妊娠・出産およびCovid-19の感染拡大によって、研究期間後半は海外での調査や研究発表といった研究計画を変更せざるを得なくなったため、将来的に構想していた、より広範なコーパスにおける当該テーマの分析を前倒しに着手することにした。すなわち、フランスの自然主義文学だけでなく、その周辺の国や時代の文学作品においてアダプテーションと語りの手法の問題を取り扱うことにより、本研究課題の汎用性を探るというものである。その初めの試みとして、2019年4月世界文学学会関西支部研究会にて「ホフマン『砂男』のアダプテーション」を発表した。この研究発表では、ドイツ文学者ホフマンによる『砂男』がオペラに翻案された際、布石と思われる語りの手法がいかにして初見者にも効果を発揮するかを考察した。

(6) これらの研究成果は、研究代表者が本務校にて行っている授業内に還元されている。その逆に、授業内ではより広範なコーパスを扱ったり、より踏み込んだジャンル間比較を試みたりすることによって、研究課題の発展を促した。また、文学作品を舞台化した演出家や、映画化した監督を招聘し、授業内でレクチャーを行ってもらうことで、まさに生み出されているアダプテーションの現在と本研究の意義を結びつけて考えなおす試みを行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Midori NAKAMURA	4. 巻 27
2. 論文標題 "L'annonce" et "l'amorce" chez Zola : Madeleine, du theatre au roman	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Excavatio	6. 最初と最後の頁 Online Journal
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 中村翠
2. 発表標題 ホフマン『砂男』のアダプテーション
3. 学会等名 世界文学会関西支部研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Midori Nakamura
2. 発表標題 Une predilection pour les chaussures dans "La Vierge au cirage" de Zola et "Le Journal d'une femme de chambre" de Mirbeau
3. 学会等名 AIZEN (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Midori NAKAMURA
2. 発表標題 Roles des personnages secondaires : du roman au theatre - "L'annonce" par la Reine Pomare dans Nana
3. 学会等名 colloque LIRE ZOLA AU XXIe SIECLE (Le Centre culturel international de Cerisy-la-Salle) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Anna Gural-Migdal et Sandor Kalai(dir.), Midori Nakamura, その他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Classiques Garnier	5. 総ページ数 328
3. 書名 Emile Zola et Octave Mirbeau : Regards croises	

1. 著者名 Aurelie Barjonet et Jean-Sebastien Mack(dir.), Midori Nakamura, その他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Classiques Garnier	5. 総ページ数 470
3. 書名 Lire Zola au XXIe siecle	

1. 著者名 Olga Anokhina et Fatiha Idmhand(dir.), Midori Nakamura, その他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Editions des archives contemporaines	5. 総ページ数 168
3. 書名 La Fabrique du texte a l'epreuve de la genetique	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------